

# ながいも調査方法

## 1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目	必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積) *
試験区(1区当り)	2列×32株=64株(2列×20株=40株)	13.8㎡( 8.6㎡)
調査対象(1区当り)	生育調査等	32株(20株)
	収量調査等	32株(20株)

\* :栽植様式を畝幅90cm×株間24cm、10a当り4,444株としたときの面積

## 2 耕種概要

項 目	単 位	備 考
栽植密度	株数	
	畝幅	
	株間	
栽植様式		均等畦か寄せ畦
1区面積	( m <sup>2</sup> )	
反復数	( 反復 )	
種いも重	( g )	
植付日	( 月 日 )	
マルチ有無		
マルチ色		
ネットの様式		正目か菱目
支柱高	(cm)	
つる切り日	( 月 日 )	
収穫日	( 月 日 )	
前作物	( )	
堆肥施用	( t/10a、月 日 )	
基肥量	N	苦土など
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	
	K <sub>2</sub> O	
	その他	
追肥量	N	
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	
	K <sub>2</sub> O	
施肥回数	( 回 )	
追肥施用日	( 月 日、月 日 )	
土壌区分		
土性		
腐植		
排水性		良否
除草剤・病虫害防除	(薬剤名、月 日)	

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁調査		
種いも重および処理方法		1個の重量	A	測定	g	1		
		全形成いもと切片いもの区別	B					
萌芽	始	栽植株数の10%が萌芽した日	B	観察	月日	1		
	期	" の40～50%が萌芽した日	A	観察	月日	1		
	そろい	" の80%が萌芽した日	B	観察	月日	1		
	萌芽率	(萌芽数/栽植株数)×100 萌芽期から30日後に調査	A	観察	月日	1		
生育	生育初期(萌芽期30日後)	草丈	親つる長を測定	B	測定	cm	1	
		葉数	展開葉のみを測定	B	測定	枚	1	
	草勢(8月中旬頃) *1		[3]強～[1]弱(ながいもを[3]強とする)	A	観察	指数	1	
	黄変期 *2		ほぼ全体の茎葉が黄変した日	A	観察	月日	1	
障害発生株率	ウイルス病*3、炭疽病、葉渋病など		障害の種類別に (発生株数/(栽植株数-欠株数))×100		B	算出	%	1

\*1 草勢の調査は、ながいもの調査の場合不要であるが、やまのいもの調査時のみ実施

\*2 黄変期については、SPAD値が20以下を黄変した葉とする

\*3 当代感染は収量に影響がないため発生株率から除外する

4 収量調査(10a当たり)

項目				調査基準	ランク	調査	単位	最小桁調査	
収穫本数	規格内	良品*1	本数割合	3L以上	出荷基準による 1000g以上	B	算出	%	1
				2L	800～1000g未満	B	算出	%	1
				L	600～800g未満	B	算出	%	1
				M	500～600g未満	B	算出	%	1
				S以下	500g未満～200g以上	B	算出	%	1
				C品*2	本数割合	分岐	カット販売可能	B	算出
	尻割れ	各奇形のいも数/規格内のいも本数×100	B	算出		%	1		
	コブ		B	算出		%	1		
	リング		B	算出		%	1		
	曲がり		B	算出		%	1		
	平		B	算出		%	1		
	規格外割合				200g未満の極小さいも、病害による腐敗、奇形 (規格外重本数/収穫本数)×100	B	算出	%	1
収量	規格内品	良品収量	規格別の内訳	3L以上	出荷基準による 1000g以上	B	算出	kg/10a	1
				2L	800～1000g未満	B	算出	kg/10a	1
				L	600～800g未満	B	算出	kg/10a	1
				M	500～600g未満	B	算出	kg/10a	1
				S以下	500g未満～200g以上	B	算出	kg/10a	1
				合計		A	算出	kg/10a	1
	C品収量			A	算出	kg/10a	1		
	規格内収量		良品収量+C品収量	A	算出	kg/10a	1		
規格外収量		200g未満の極小さいも、病害による腐敗、奇形	A	算出	kg/10a	1			
総収量		規格内収量+規格外収量	A	算出	kg/10a	1			

良品率(重量比率)	$(\text{良品収量} / \text{総収量}) \times 100$	A	算出	%	1
規格内率(重量比率)	$((\text{良品収量} + \text{C品収量}) / \text{総収量}) \times 100$	A	算出	%	1
多数本いも株率 *3	$(\text{多数本いも株数} / \text{収穫株数}) \times 100$	A	算出	%	1

\*1 形状が良好なA品と軽微な根茎異常のB品。1本売される

\*2 奇形部をカットして販売

\*3 多数本いも株とは、種いもから伸長した1本のつるに2個以上の新しいもができる株。ただし、新しいものうち、いちばん大きいいも1個を除いて、残りのすべての新しいもが200g以下の小さいものである場合は、多数本いも株と扱わない

## 5 特性調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
平均一本重		良品のみを調査	A	算出	g	1
全長		首部を含む全体の長さ	A	測定	cm	1
調整長		首部を除いた長さ。直径が10円玉大の部位で切断	B	測定	cm	1
最大いも径		最も太い部分の直径	A	測定	cm	0.1
外観品質		[良]5~[不良]1(いもの肌の色、表面の滑らかさ、毛穴等で判断する)	B	観察	指数	1
内部品質 *1	褐変程度	[無]5~[中]3~[基]1	A	観察	指数	1
	乾物率	[高]17%以上 [中]15%以上17%未満 [低]15%未満	A	測定	%	0.1
	粘度	RVAによる測定(ながいもは82RVU以上が高い粘度)	B	測定	RVU	0.1
	Brix		B	測定	%	0.1

\*1平均一本重、全長、調整長、最大いも径の調査は、基本的に多数本いも株のいもをはずし調査する。

ただし、多数本いも株が30%をこえる試験区においては、多数本いもについても別途調査する。

測定サンプルの調整法は、ナガイモの可食部(首部を除いた残りの部分)を3または5等分し、中央部は乾物率、粘度、Brix用、肩部に近い部位は褐変程度用としておろし金ですり下ろしてとろろにする。

褐変程度は、収穫直後、冷蔵貯蔵を行う前に観察するのが望ましい。すり下ろしてから1時間経過後の褐変程度で判定する。

乾物率の測定方法は、とろろをガラスシャーレに15g前後入れ、70℃の恒温器で48時間乾燥し乾物率を算出する。